

## 新春展示

# 虎 —若槻禮次郎コレクション—

令和4年は寅年です。新春を迎えるため、<sup>わかつきれいじろう</sup>若槻禮次郎が所蔵していた虎の絵を公開します。この絵は、出雲市平田町出身の画家である<sup>おむらたいうん</sup>小村大雲（1883～1938）が描いたもので、<sup>おおたに やきち</sup>禮次郎の後援者である平田町の大谷弥吉から禮次郎へ贈られました。その際の若槻家の進物帳が残っており、「虎の軸物 小村大雲画」と記されています。この進物帳には、「1926」のサインがある若槻禮次郎肖像画の記載があることから、禮次郎の総理大臣就任を祝って大正15年(1926年)に贈られたものとわかります。

禮次郎は慶応2年（1866年）の寅年生まれです。大谷弥吉はそれを知ったうえで、大命を拝した禮次郎にこの絵を贈ったのかもしれませんが。

## 虎（小村 大雲 画 / 若槻家所蔵(松江歴史館寄託)）

<sup>おむら たいうん</sup>小村 大雲（1883～1938）

現在の出雲市平田町で生まれる。幼少時より画技に秀で、18歳のときに京都へ行き、<sup>もりかわ そふん</sup>四条派の画家森川曾文に入門する。その後、<sup>つじか こう やまもと しゆんきよ</sup>都路華香や山元春筈のもとで研鑽を積む。

動物画や武者絵に定評があり、京都画壇を舞台に文展や帝展で活躍した。



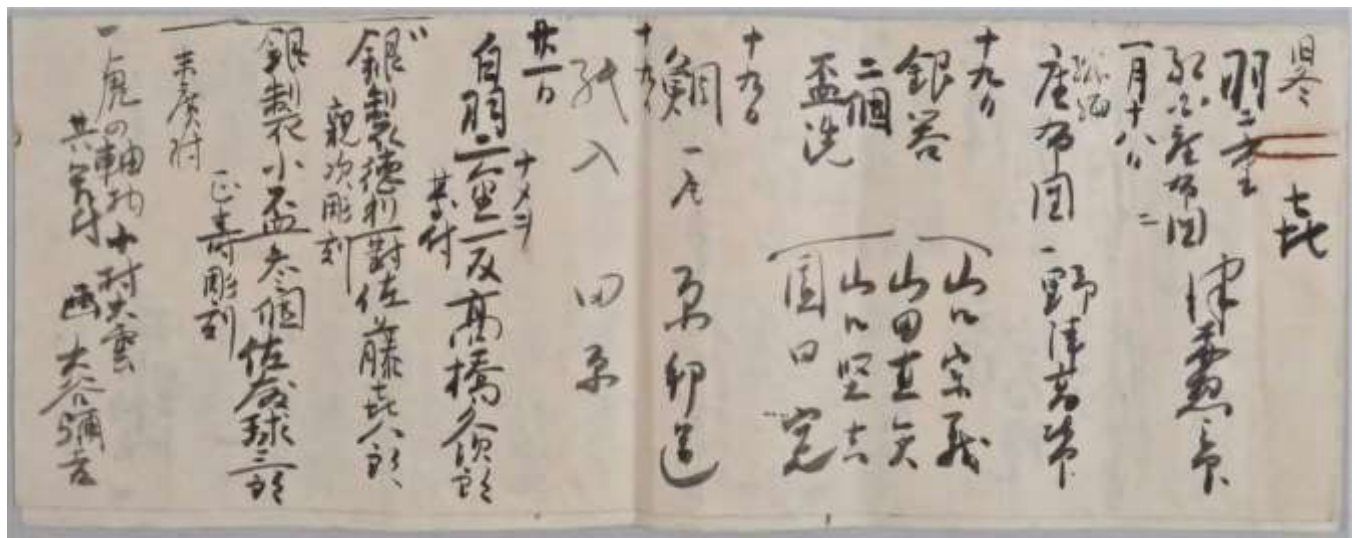
わかつき せいじろう  
**若槻 禮次郎 (1866~1949)**

松江藩の足輕であった奥村仙三郎おくむらせんさぶろうの次男として、松江の雑賀町さいかまちで生まれる。叔父である若槻敬けいの養子となり、敬の娘の徳子と結婚して若槻家を継ぐ。

若くから苦学し、敬の援助を受けて上京、帝国大学（東京大学）仏法科を首席で卒業。大蔵省へ入庁し、大蔵次官を務めたのちに政治家へと転身する。

総理大臣を二回拝命、大正 15 年（1926）1 月に第一次、昭和 6 年（1931）4 月に第二次若槻内閣を組閣した。その後は昭和天皇を輔弼する重臣の一人として、一貫して平和主義を貫いた。

平成 30 年（2018）に若槻家より松江市に禮次郎の遺品等を寄贈、寄託され、松江歴史館の若槻禮次郎コレクションとして折々公開している。



旧冬 喜

羽二重 津森惣三郎

紅白座布団二

一月十八日

縮緬 野津高次郎

座布団一

十九日

銀器

二個

盃洗

十九日

鯛一尾

十九日

紙入

廿一日

白羽二重二反

台付

銀製德利一对

親次彫刻

銀製小盃参個

正寿彫刻

末広付

一虎の軸物

共箱付

画

大谷弥吉

**進物帳（大正 15 年 1 月/若槻家所蔵（松江歴史館寄託））**

他のページの記載から大正 15 年（1926）の内閣総理大臣就任を祝って贈られた進物品の一覧と推測する。本ページの左端に「虎の軸物 小村大雲画 大谷弥吉」の記載がある。大谷弥吉は平田町出身で、一畑電鉄の創始者である。禮次郎の後援者として親しくしていた。

山口宗義のつこうじろうと原邦道はらかずおは島根県出身の財務官僚で禮次郎の先輩、後輩にあたる。野津高次郎きょうじろうは山口宗義の弟半六の娘婿、田原は禮次郎の娘婿の田原和男であろう。高橋久次郎きゅうじろうは出雲市出身の国会議員、佐藤喜八郎きはちろう、同球三郎きゅうは松江市出身の国会議員である。佐藤が贈った銀器は松江の彫金家塩津親次しおつちかつぐ、正寿まさとしが作ったもの。